

## 第4学年 国語科学習指導案

### 1 単元名 「ごんぎつね」のクライマックスを作ろう

#### 2 単元の目標

- 「ごんぎつね」のクライマックスを作るために、叙述を根拠としたり自分の経験と重ねたりしながら物語を読み進めようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の言動や情景描写を基に、気持ちの変化を読み取ることができる。 (読む能力)
- 登場人物の立場になって考えたことを伝え合い、それぞれの感じ方の違いに気付くことができる。 (読む能力)
- 表現したり理解したりするために必要な語句を増やすために、辞書や本、インターネットを活用して調べることができる。 (言語についての知識・理解・技能)

#### 3 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・「ごんぎつね」のクライマックスを作るという目的意識をもって、意欲的に物語を読み進めようとしている。	・「ごん」や「兵十」の言動や情景描写などを基に、それぞれの気持ちの変化を読み取っている。 ・「ごん」「兵十」それぞれの立場になって読んで考えたことを伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 C (ウ) (オ)	・「ごんぎつね」をより深く理解するために、語彙について辞書や本、インターネットを活用して調べている。 伝国イ (カ)

#### 4 単元について

##### (1) 本単元で行う主たる言語活動

「ごんぎつね」は、いたずら好きでひとりぼっちの小ぎつね「ごん」と、同じ境遇になってしまった「兵十」との心の交流を描いた物語である。通じ合いたいと切に願いながらも通じ合えない「ごん」と「兵十」とのすれ違いが、最期に「ごん」が銃で撃たれるという非情さやむなしさにつながっていく。また、本教材は「わたし」が語り手となり伝承風書き進められているため、子どもたちは一人の読み手として、「ごん」の視点に立ったり、「兵十」の視点に立ったりしながら、登場人物の心情や場面の移り変わりを読み取ることができる。さらに、物語全体を通して、美しい情景描写が見られるため、子どもたちは読むことの楽しさを味わいながら、想像力豊かに読み深めていくことができる教材であると考えられる。

そこで、本単元では、自分で考えた「ごんぎつね」のクライマックスを作るという言語活動を行う。「ごんぎつね」の魅力により深く迫るためには、物語の本質をしっかりと理解すること、今の自分の心に引っかかった表現や場面について考えを巡らせることが大切である。そこで、本単元では敢えて結末の場面を子どもたちに伏せておく。そうすることで、子どもたちはこの後に

どのような展開が広がっていくのだろうと、「ごんぎつね」の世界により惹きこまれていくのではないかと考える。そして、自分たちで最後のクライマックスを作るという活動を位置づけることで、「ごんぎつね」の登場人物やその関係性についてしっかりと読み進めていくであろう。

「ごんぎつね」を読むと多くの子どもたちは、「ごん」のする「つぐない」「いたずら」に目を向け、疑問をもったり、共感したりしている。この、「つぐない」「いたずら」を読む視点と設定し、どちらかの視点を選択して物語を一人読みしていくようにする。

さらに、一人読みしたことを、子どもたち同士の交流によって深めていくということも大切にしたい。自分の選んだ立場で読んで自分の考えを構築させ、視点を基にそれぞれが読み取ったことを、同じ立場の友達や違う立場の友達と交流させる。交流を繰り返す中で、子どもたちは「ごん」と「兵十」のそれぞれの勘違いや気持ちのすれ違いに気付くことができ、クライマックスを作る活動にもつなげていけると考える。交流によって自分の読みに自信をもてるようになり、多様な読みを認め合う中で自分の考えを深めさせていけるようにしていきたい。そして、最後に新美南吉の考えた「ごんぎつね」の結末にしっかりと着目させ、作者がなぜこのような結末を描いたのか、またその結末ならではの良さについても吟味させていきたい。

このような学習の流れを踏まえることで、子どもたちは「ごんぎつね」の魅力に自然と迫っていけるのではないかと考える。また、「ごんぎつね」の中には美しい情景描写もたくさん出てくる。その中で、自分の心に引っかかった言葉や場面についても併せて考えさせていきたい。そのときの自分の状況や気持ちによって引っかかる言葉も変わってくるだろう。なぜ、その言葉や場面が今の自分の心に引っかかったのか、自分の経験や状況と照らし合わせながら読ませ、それを追究させることによって、その子だけが感じた魅力を見つけられるのではないかと考える。さらに、自分たちが作ったクライマックスを紹介し6年生と「ごんぎつね」交流会をする。すでに、学習を終えた6年生と「ごんぎつね」という作品について話し合うことでよりよい交流ができるし、作品に対する考えも深まるのではないか。

## (2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領第3学年及び4学年「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」に基づき、指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」を受けて、設定している。

本教材「ごんぎつね」は、中心となる人物である「ごん」と「兵十」との関係の変容を描いた物語である。「ごん」の気持ちは、「兵十」との関わりを重ねるに連れて変化していく。「ごん」と「兵十」の置かれた境遇や情景描写、「ごん」の行動や内言語などに着目させて、「ごん」の気持ちを一人読みしていく。その後、物語のクライマックスを作るという活動を位置づける。一人読みをしたことや自分の作ったクライマックスを交流し合うことで、次の力が付いていくだろうと考える。

- ①叙述を基に想像して読む中で作品の本質をとらえ、その中で自分が感じたことを表現する力
- ②自分と同じ立場や違う立場の友達と考えを交流する中で自分の考えを再構築する力

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

①新美南吉の作品に親しむ環境づくり

「ごんぎつね」を読むに当たって、その作者がもっている世界観や独特な言い回しを知ることとは大切なことだと考える。そこで、新美南吉の作品コーナーを設け、作者に興味をもてるような環境づくりをしていく。今までにも定期的に学習に関連のある読書コーナーを設けて、子どもたちの積極的な読書を促してきた。読んだ本は、読書カードに記録し、その中で、気になった言葉に関しては本やインターネットを活用して調べ、本単元の学習に生かせるようにしている。

②リテラチャー・サークルによる交流

3、4人のグループで同じ本を読んで話し合う活動に取り組んでいる。グループの中でそれぞれが役割をもって本を読み、自分の読んだことを友達に伝えたり、友達の読んだことを聞いたりすることを繰り返し行っている。役割は以下の3つである。

- 思い出し係…前に読んだ物語と似ているところや自分の経験からつながりを発見する係
- 質問係…疑問に思ったこと、グループで話し合いたいような質問を作る係
- 言葉係…読んだ中で気になった言葉や特別な言葉を探す係

③読む力をつけるための手立て

子どもたちが言葉のイメージをよりつかめるように、語彙を増やし活用できるように言葉のイメージ集作りを行っている。「赤」「青」「白」などの色や「しとすと」「からっと」などの様子を表す言葉からイメージを広げるという活動を続けていることで、細かい叙述や情景描写にも注目して読めるであろうと考える。また、子どもたちの読む力を付ける手立てとして、音読カードを活用し、通年で音読に取り組んでいる。

5 単元の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動と内容	指導や支援の手立て ◇評価
1	1	<p>○教師の「一つの花」の魅力の紹介を聞く。</p> <p>○本文を読んで、疑問や考えを持ち話し合う。</p> <p>○6年生に「ごんぎつね」の魅力伝えるまでの学習の見通しを立てる。</p>	<p>・「教師の考えたクライマックス」「今西祐行の考えたクライマックス」「『一つの花』の好きなところ」の3項目で紹介をし、これからの学習を意識させる。</p> <p>・クライマックスを考えるという活動につなげていくため、5の場面までしか提示しないようにする。</p> <p>・6年生に「ごんぎつね」の魅力伝えるというゴールを示すことで、目的意識・相手意識を併せてもてるようにする。</p> <p>・学習の見通しを立て、それを学習計画表として掲示することで、毎時間ねらいをもって主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>◇「ごんぎつね」の魅力伝えることに関心をもち、学習計画を立てようとしている。 (関心・意欲・態度)</p>

2	<p>○「ごんぎつね」の表現を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「空はからっと晴れていて、…」からはごんの嬉しい気持ちが伝わってくる。</li> <li>・「ひがん花がふみ折られていました。」から、さみしさや兵十のおっ母の死を感じる。</li> <li>・「ひがん花が赤いきれのようにさき続いています。」から、暗い印象を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちから出た疑問や考えをまとめて整理したものを掲示物として掲示し、全体で疑問点や考えを共有する。</li> <li>・色や様子を表す言葉などに注目するように声かけをする。</li> </ul> <p>◇登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。 (読む能力)</p>
3 4	<p>○ごんのした「いたずら」「つぐない」について読み、友達と交流する。</p> <p>「つぐない」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごん」は「兵十」のおっかあが死んでしまったのは自分のせいだと思い込んでつぐないを始めたんだ。</li> <li>・つぐないは1日だけでなく、毎日続けている。</li> </ul> <p>A：本当に悪かったと思っているんだ。 B：どうして毎日つぐなってるんだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわしで失敗して、次の日から変えているぞ。</li> <li>・「ごん」が何度も贈り物をしているのに「兵十」は全く気付いていないな。</li> </ul> <p>「いたずら」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日中いたずらしているのはさみしかったからかな。</li> <li>・うなぎをとるいたずらで「ごん」はすごく後悔している。自分も同じような経験があるな…。</li> <li>・ばれないようにって思っているのに、どうして「兵十」の影をふみながら歩いているのかな。見つかったらどうするんだろう…。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの視点をもとに一人読みをさせる。</li> <li>・読むことを苦手に行っている子には、本文にある、「ごん」の言動にサイドラインを引くよう声かけをする。</li> <li>・自分の状況や経験を根拠にしてもよいことを確認する。</li> <li>・読み取ったことをもとに、同じ立場の友達や違う立場の友達と交流させる。</li> <li>・グループの人数は3、4人とする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流して気付いたことを書かせるようにする。</li> </ul> <p>◇登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。 (読む能力)</p> <p>◇交流を通してそれぞれの感じ方の違いに気付いている。 (読む能力)</p>
5	<p>○「ごんぎつね」のクライマックスを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの読みをもとにクライマックスを考えることを確認する。</li> <li>・場面絵を画用紙にかかせ、その裏にクライマックスの原稿を貼って次時の交流に生かせるようにする。</li> <li>・書けない子には、チャート図のワークシートを用意したり、紹介のモデルの掲示をもとに考えさせたりする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の校正よりも、なぜこのようなクライマックスにしたのかという子どもたちの思いを深められるようにする。</li> </ul> <p>◇読み取ったことをもとに、クライマックスを考えている。 (読む能力)</p>
6 (本時)	<p>○自分たちの考えたクライマックスを紹介し合う。</p> <p>○作者が描いた結末を知り、その良さを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3、4人のグループで交流することを確認する。</li> <li>聞き手は、話し手のクライマックスの展開や気になった表現などに着目して質問をし、話し手の思いを引き出せるようにする。</li> <li>交流後は、交流して気付いたことを書かせるようにする。</li> <li>新美南吉が選んだ「ごん」の死というクライマックスに着目し、作者がなぜこのような結末を選択したのか話し合い、作品の良さに気付けるようにする。</li> </ul> <p>◇交流を通してそれぞれの感じ方の違いに気付いている。 (読む能力)</p>
7	<p>○「ごんぎつね」の魅力を見つけて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>兵十のかげぼうしをふみふみのところが好きだな。</li> </ul> <p>A:「兵十」に気付いて欲しいという「ごん」の気持ちがかわいい。</p> <p>B:「加助」ではなく「兵十」のっていうのが「ごん」の「兵十」に対する思いが伝わってきて好きだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最後の「青いけむり」という表現がいいな。青って色について調べたんだけど…。</li> <li>私は「彼岸花」が気になったので調べてみたよ。</li> <li>空はからっと晴れていて、もずの声がきんきんひびいてたところが好きです。</li> </ul> <p>A:なぜなら、「ごん」の寂しい気持ちがなくなったのが伝わってきたから。</p> <p>B:いたずらできるぞという「ごん」の嬉しい気持ちが伝わってきてかわいいから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライマックスの部分を含めて全文を読み返し、気になった表現にサイドラインを引かせるようにする。</li> <li>自分の経験や状況と照らし合わせながら読ませ、それを追究させることによって、魅力に迫れるようにする。</li> <li>自分の見つけた魅力を友達と交流することで、感じ方の違いに気付けるようにする。</li> </ul> <p>◇登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。 (読む能力)</p> <p>◇交流を通してそれぞれの感じ方の違いに気付いている。 (読む能力)</p>
2	8	<p>○6年生に「ごんぎつね」の魅力を伝える準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝え方の例を見せて、6年生に何をどのように伝えるのかを明確にしていく。</li> </ul>

	〈6年生に伝えること〉 ・自分の考えたクライマックスについて ・新美南吉の考えたクライマックスについて ・「ごんぎつね」の好きなおとこ	・伝え方の手段として、絵にかいたり短冊や挿絵を活用したりしてもよいことを確認する。 ◇6年生に魅力を伝えるために進んで準備をしている。 (関心・意欲・態度)
9	○6年生と「ごんぎつね」交流会をする。 ○学習のふり返しをする。	・4、6年生混合の5、6人のグループで交流する。 ・交流したことを全体で確認して、考えなどを共有できるようにする。 ◇6年生に「ごんぎつね」の魅力を進んで伝えている。 (関心・意欲・態度)

6 本時の目標と展開

(1) 本時の目標 (6/9)

○自分の作ったクライマックスの紹介をするという交流を通して、一人一人の感じ方の違いがあることに気付くことができる。 (読む能力)

(2) 本時の展開

学習活動と内容	○指導の指導と手立て ◇評価
1 学習の見通しをもつ。	○前時までの学習を、学習計画表や掲示物をもとに確認する。 ○本時は、自分の作った「ごんぎつね」のクライマックスを紹介し合って交流することを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             「ごんぎつね」のクライマックスを紹介し合おう。           </div>	
2 グループで紹介し合う。 (話す視点) ・クライマックスを伝えられたか。 ・なぜ、このクライマックスにしたのか思いを伝えられたか。  (聞く視点) ・どんなクライマックスか理解できたか。 ・なぜ、そんなクライマックスにしたのか理解できたか。 ・自分の考えと似ているところ、違うところを見つけられたか。	○グループは3、4人で構成する。 ○話し手は、自分が描いたクライマックスの展開について、今までに読み取ってきたことなどから理由を明らかにして話すことを確認する。 ○交流する中で、クライマックスの展開などで困っていることなどがあれば、グループ内で相談して話し合っよういことを確認する。 ○聞き手は、話し手のクライマックスの展開や気になった表現などに着目して質問をし、話し手の思いを引き出せるようにする。 ○文章の校正には着目しないように声かけをする。 ○交流後は、交流して気付いたことを書かせるようにする。 ◇交流を通してそれぞれの感じ方の違いに気付いている。 (読む能力)

<p>3 全体で交流する。</p> <p>4 新美南吉のクライマックスの良さを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして「青い」けむりなんだろう？</li> <li>・ 「青」だから悲しみを表しているのかもしれない。</li> <li>・ ごんはぐったりと目をつぶったままうなずきましたのところで、ごんの気持ちが兵十に伝わってよかった。</li> <li>・ 最後に「ごん」の思いが伝わってよかった。</li> <li>・ 思いが伝わっても死んでしまっは…</li> <li>・ 作者の新美南吉さんは、「ごんぎつね」という作品で一度やってしまったことは取り戻せないということを伝えたかったのかなと思いました。</li> </ul> <p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○交流して気付いたことを全体で共有できるようにする。</p> <p>○「ごんぎつね」の6の場面を配り、音読をして場面をつかめるようにする。</p> <p>○新美南吉が選んだ「ごん」の死というクライマックスに着目し、作者がなぜこのような結末を選択したのか話し合い、作品の良さに気付けるようにする。</p> <p>○次時から6年生に「ごんぎつね」の魅力を伝えるための準備の時間となることを確認する。</p>
--	--